

奈良県南部振興計画

平成26年3月
奈良県

目次

1	基本的事項	1
(1)	振興対象地域	
(2)	振興事業	
(3)	振興計画	
(4)	計画策定の目的	
(5)	計画の進め方	
2	南部地域における課題	3
①	南部地域における過疎化・高齢化の実態	
②	集落実態調査の結果	
③	紀伊半島大水害からの復旧・復興	
3	対策の柱	8
4	南部振興推進組織	9
(1)	地域との連携・協働	
(2)	庁内体制の整備	
(3)	南部振興を着実に推進するための組織	
5	アクションプラン【具体的な事業カード】	12
(1)	産業振興の強化と安定した就業の場の確保	12
(2)	安全、安心、快適な生活を支える社会基盤の整備	26
(3)	地域の魅力資源を活用した観光・交流の促進	36
(4)	南部地域への移住等の推進	48
(5)	財源の確保	51
(6)	今後検討を進めるプロジェクト	53

1 基本的事項

(1) 振興対象地域

本計画により振興すべき対象とする地域は、過疎化・高齢化が進展し、地域産業の活性化等多くの課題を抱える地域とする。

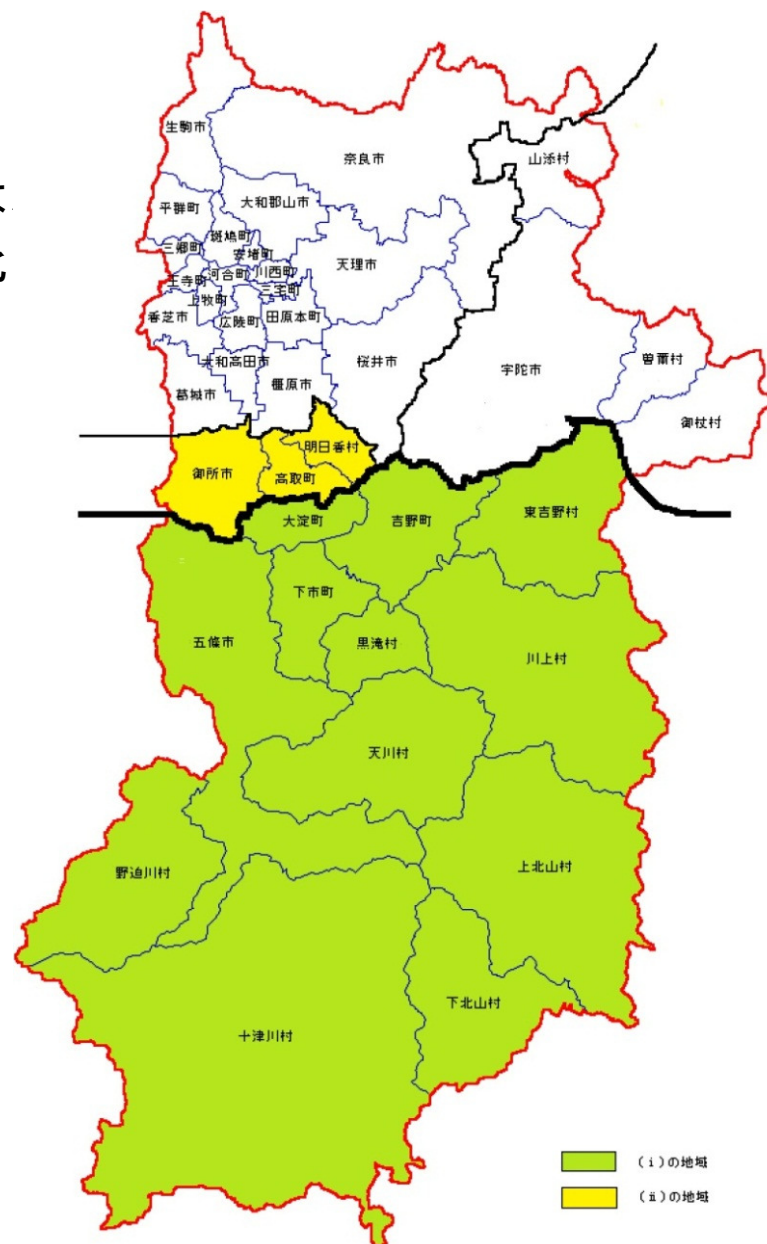
具体的には、次の市町村の地域とする。

(i) 南部地域

五條市、吉野郡

(ii) 南部地域と同様の課題を抱える地域

御所市、高取町、明日香村



(2) 振興事業

本計画には、次の事業を記載する。

(i) 対象地域内事業

振興対象地域内における振興事業

(ii) 対象地域外事業

振興対象地域を活性化するための起爆剤・牽引役となる事業。

振興対象地域外における事業も計画に盛り込んでいく。

(3) 振興計画

本計画は、振興事業を計画的に推進するため、事業の内容とプロセスを具体的に示すものである。

(4) 計画策定の目的

振興対象地域(南部地域及び同様の課題を抱える地域)の振興は、県土の均衡ある発展を図る上で最重要課題であり、実効的な事業を具体的に示すことが本計画策定の目的である。

(5) 計画の進め方

今後、事業カードに基づいて具体的に事業を実施していく中で、社会状況の変化、地域の新たな動きにも柔軟に対応し、毎年、計画の内容を見直し、必要に応じて改訂していく。

2 南部地域における課題

人口減少が続く南部地域の課題

- ・ **高齢者福祉への支援**
- ・ **若者の雇用の場の創出**
- ・ **林業等地域産業の振興**
- ・ **集落の維持・活性化**
(買い物、通院、バス交通など生活維持のための対策)
- ・ **紀伊半島大水害からの復旧・復興**

① 南部地域における過疎化・高齢化の実態

南部地域の人口は、昭和35年から平成22年までに、△43.1%と他の地域に比べ急激に人口が減少。また、高齢者比率が31.8%と高い。

これまでも道路をはじめとする社会資本、生活環境の整備、産業の振興及び福祉・医療の充実等各種の過疎対策事業を実施してきたが、依然として人口の減少傾向に歯止めがかかっていない状況。

人口減少率

若年者・高齢者比率(平成22年)

区 分	S35 人口	H7 人口	S35~H7		H22 人口	S35~H22		区 分	若年者		高齢者		面積 km ²
			増減数	増減率		増減数	増減率		人口	比率	人口	比率	
北・西・中部	578,937	1,276,816	697,879	120.5	1,276,548	697,611	120.5	北・西・中部	200,280	15.7	294,152	23.0	902.50
(南・東部以外)	(74.1)	(89.2)			(91.1)			(南・東部以外)	(92.3)		(88.1)		(24.5)
南部地域	143,779	101,106	▲ 42,673	▲ 29.7	81,849	▲ 61,930	▲ 43.1	南部地域	10,993	13.4	26,046	31.8	2,346.90
	(18.4)	(7.1)			(5.8)				(5.1)		(7.8)		(63.6)
東部地域	58,342	52,940	▲ 5,402	▲ 9.3	42,331	▲ 16,011	▲ 27.4	東部地域	5,695	13.5	13,548	32.0	441.65
	(7.5)	(3.7)			(3.0)				(2.6)		(4.1)		(12.0)
全 県	781,058	1,430,862	649,804	83.2	1,400,728	619,670	79.3	全 県	216,968	15.5	333,746	23.8	3,691.05

(単位:人、%)

※ 人口:国勢調査結果より
 南部:五條市、吉野郡
 東部:宇陀市、山添村、曾爾村、御杖村
 若年者:15歳以上30歳未満、高齢者:65歳以上

② 集落实態調査※1の結果

特に過疎化、高齢化が著しい当該地域において、集落实態調査結果等から、今後の課題を整理すると以下に集約される。

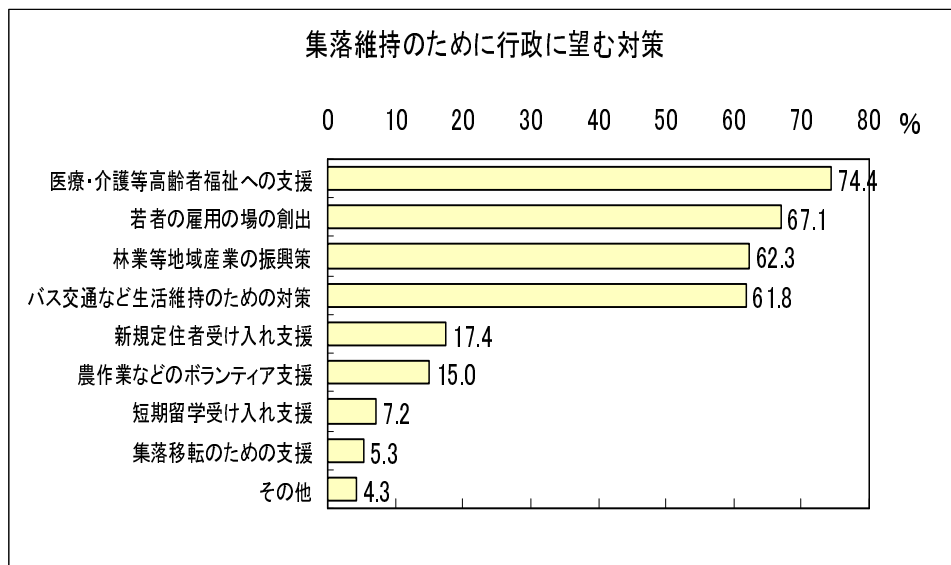
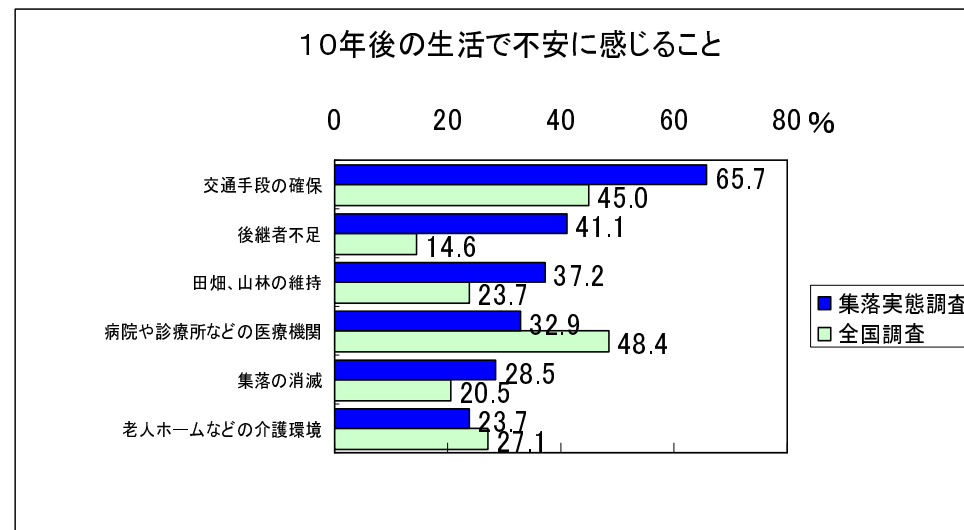
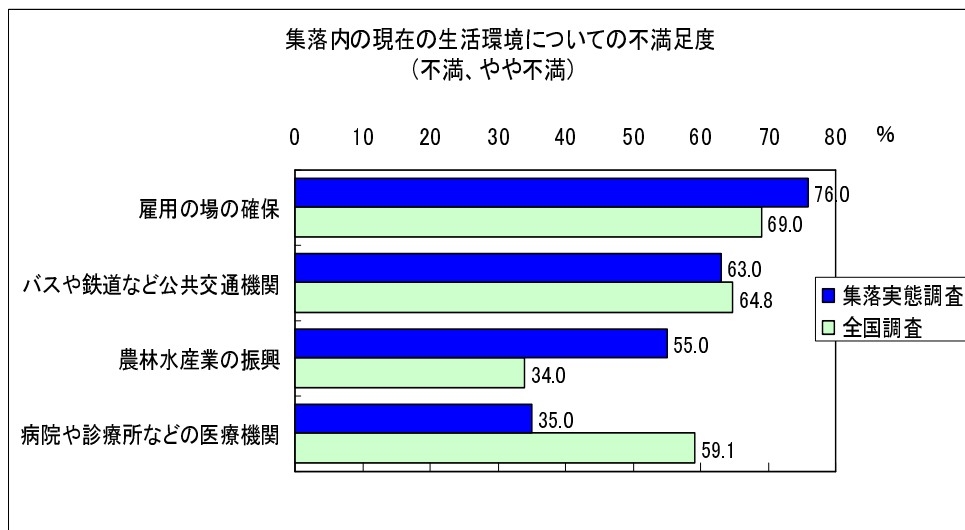
(i) 残された課題

集落实態調査では、「雇用の場の確保」、「バスや鉄道など公共交通機関」、「農林水産業の振興」について「不満」または「やや不満」と回答する割合が50%を超え、これらの項目については、10年前と比較して、悪化したと回答する割合が高く、行政に望む対策においても、上位2位～4位となっている。

医療・介護環境については、現状では、比較的満足度が高いが、行政に望む対策の1位で、10年後の生活を考えたとき、不安に感じることの4位に医療機関、6位に介護環境となっている。

これまでの過疎対策事業においても、産業振興、医療・福祉の充実などに取り組んできたところであるが、「医療・介護等高齢者福祉への支援」、「若者の雇用の場の創出」、「林業等地域産業の振興策」、「買い物、通院、バス交通など生活維持のための対策」について、引き続き、優先的に取り組む必要がある。

※1 奈良県の過疎地域における集落实態調査(H22. 3)
調査期間:平成21年7月、8月
調査対象集落:過疎市町村に所在する207集落



(ii) 新たな課題

集落实態調査では、今後の居住意向について、最も多いのは「住み続けたい」(87.0%)で、全国調査と比較して、高い回答の割合を示している。しかし、農地、山林の荒廃により種々の問題が発生し、共同作業や伝統行事、伝統芸能の継続が困難になってきており、10年後の集落の見通しとして、「集落の維持は困難だと思っている」との回答が40.6%を占めている。

また、本県の過疎地域市町村では、65歳以上の高齢者が半数を占める集落の比率が、全国及び近畿より高い※2。これらのことから、集落機能の維持・活性化への対応を強化する必要がある。

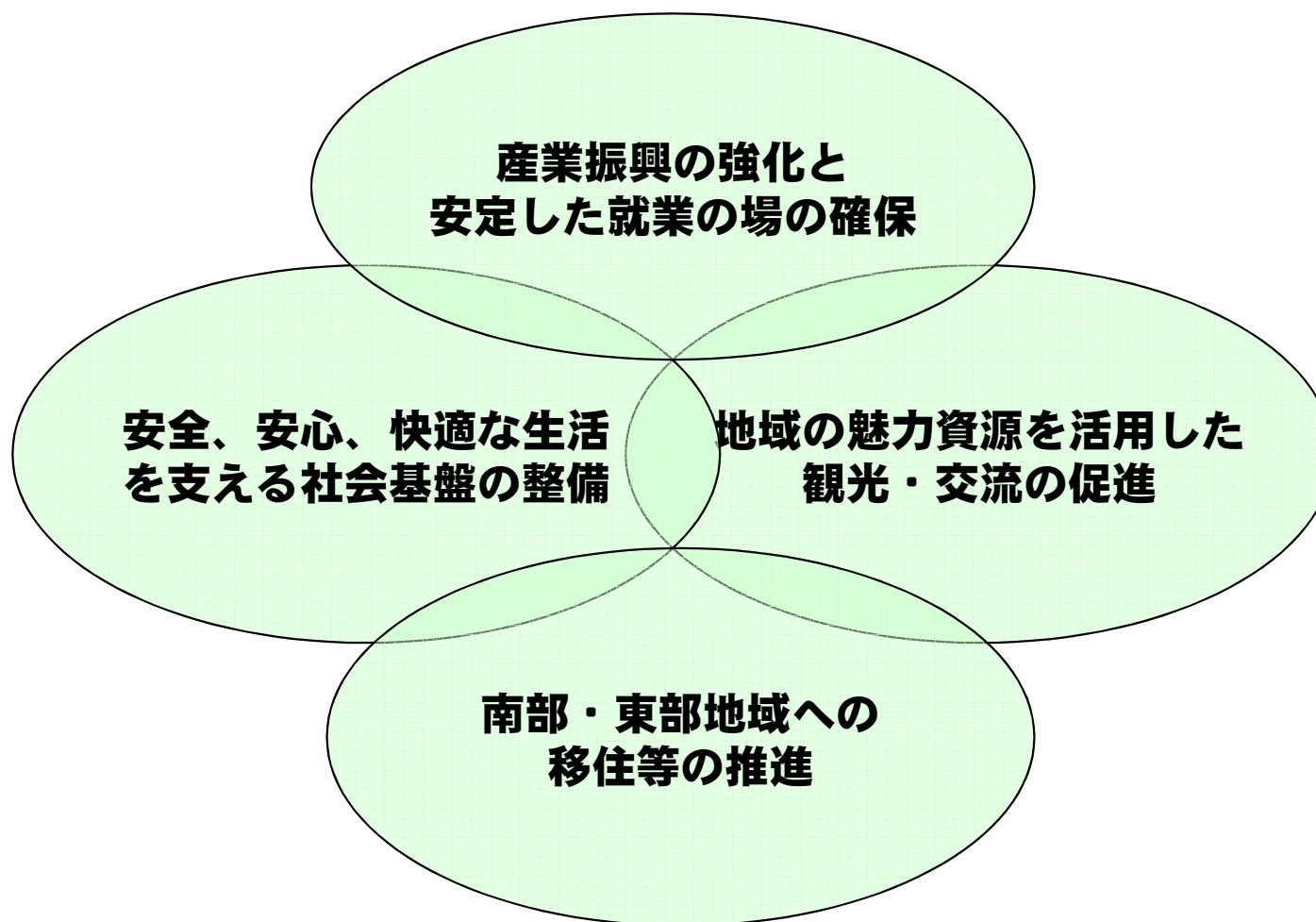
※2 「国土形成計画策定のための集落の状況に関する現況把握調査」
(平成18年度国土交通省・総務省)による。

③ 紀伊半島大水害からの復旧・復興

平成23年9月の台風12号による被害を受け、県では、百年の計に立ち、「災害に強く希望の持てる」地域づくりを基本方針とする「奈良県紀伊半島大水害復旧・復興計画」を平成24年2月に策定。平成32年までの10年間を計画期間として、被災地域の復旧・復興に取り組むこととしており、被災の状況に応じた地域ごとにきめ細やかな対応が必要である。

3 対策の柱

課題を踏まえ、次の4つを柱に、具体的対策を講じる。



4 南部振興推進組織

(1) 地域との連携・協働

- ① 奈良県南部・東部振興推進会議
南部振興施策全般に関する意見交換及び提言を得る場。
知事を議長とし、計画対象市町村長、県議会の南部・東部地域振興対策特別委員長、全部局長等で構成。
- ② 地域を元気にする「寄合」
南部東部振興監が振興対象市町村に出向き、地域住民、関係団体等と意見交換。

(2) 庁内体制の整備

- ① 南部・東部振興推進本部
知事を本部長とし、副知事・全部局長等からなる組織。
南部振興計画の推進と南部振興に関わる施策、事業の調整、南部振興計画の見直しを行う。
- ② 南部・東部振興推進本部幹事会
全部局企画管理室長等からなる組織。
南部振興計画記載のアクションプランごとに主担当課を決め、進捗管理を行う。

(3) 南部振興を着実に推進するための組織

① 担当副知事、南部東部振興監等の設置

平成23年度から、南部振興監、南部振興課及び地域支援員を本庁に設置。
本庁に設置することで、庁内関係部局と常時調整を図りながら、相互に南部振興策を構築し、円滑に施策の推進を図る。

平成24年4月から南部・東部振興担当副知事を設置。

平成25年4月から南部東部振興監、南部東部振興課に名称変更。

副知事

南部東部振興監

----- 南部・東部振興という視点で県庁内の他部局をとりまとめ、振興策を強力に推進。

南部東部振興課

└── 地域支援員

----- 恒常的に地元の情報やニーズをきめ細やかに把握。市町村・住民団体等と協働して、課題の解決方策について具体的な取組を検討。それに基づき、南部振興計画を更新、充実。

② 担当業務

(i) 南部振興計画の推進

本計画に記載された事業の着実な実現を図るとともに、地域のニーズに基づく新たな事業を開拓し、アクションプランに組み入れる。

(ii) 地元ニーズの把握、新規事業の検討及び実現のための支援

市町村からの聞き取り、地元住民との対話などにより、地域のニーズを把握し、連絡調整を図りながら南部振興計画に反映する。

県、市町村、住民団体等が協働して、課題の解決方策について具体的な事業を検討し、南部振興計画に位置付けられた事業については、各種の支援を行う。

(iii) 観光振興、移住推進等の事業の実施

美しい自然や豊富な歴史資源などの魅力を活用し、グリーンツーリズムをはじめとする観光振興対策を実施する。

また、空き校舎やグラウンドの活用、空き家の情報発信など、過疎を強みに変えて取り組む交流・移住推進事業を実施する。

5 アクションプラン【具体的な事業カード】

(1) 産業振興の強化と安定した就業の場の確保

- ・ 林業及び木材産業の振興
 - (1) 県産材の利用推進
 - (2) 木質バイオマスの利活用
 - (3) 森林の生産能力の向上
- ・ 公的関与による森林環境管理制度の導入
- ・ 拠点商業施設による地域振興
- ・ 御所IC周辺のまちづくり
- ・ 「眺望のいいレストラン」の認定・支援
- ・ 地域特産物の生産・販売の促進
- ・ 農林水産業による地域の復興応援
- ・ 鳥獣被害対策と野生獣の有効活用
- ・ コミュニティビジネスによる山村地域の雇用創出

【林業及び木材産業の振興】

産業振興の強化と安定した就業の場の確保

(1) 県産材の利用推進 ①公共建築物及び民間住宅等への県産材利用の拡大

○平成24年3月に策定した「公共建築物における“奈良の木”利用推進方針」に基づき公共建築物での県産材利用を推進するとともに、民間住宅においても県産材利用の促進を図る

- 県有公共建築物における木造化及び内装等木質化の取組みを推進
- 市町村における公共建築物への県産材利用の促進
- 奈良県地域認証材や県産材を使用した住宅への建設費用の一部を助成
- 住宅への奈良の木利用を積極的に提案できる奈良の木の匠を養成



奈良県地域認証材

平成25年度

○建築物の木造・木質化推進

- ・県庁玄関ホールリニューアル(7月竣工)、中央こども家庭相談センター木質化(8月竣工)
- ・学童保育所1施設(大和郡山市)、保育所園舎3施設(橿原市)、幼稚園1施設(三宅町)、社会福祉法人2施設へ助成

○奈良の木づかいを推進(民間住宅への県産材の利用を推進)

国の木材利用ポイント制度へ本県独自の上乗せ助成により地域認証材及び県産材の利用を促進

○奈良県産材住宅の普及促進

県産材取扱業者・工務店等のネットワーク構築、県産材流通拡大への支援等



県庁玄関ホール

平成26年度

○建築物の木造・木質化の推進

- ・小中学校の木造・内装木質化(生駒市・野迫川村)
- ・社会福祉施設の木造・内装木質化(5法人 5施設)
- ・インターハイ競技会場となる木造体育館の整備(五條市)

○奈良の木づかいを推進(民間住宅への県産材の利用を推進)

国の木材利用ポイント制度へ本県独自の上乗せ助成を更に増額することにより地域認証材及び県産材の利用を促進

○「奈良の木の匠」の養成

大工や設計士、住宅販売営業担当者に奈良の木の特徴等の知識を習得していただき、奈良の木利用を積極的に提案できる奈良の木の匠を養成



中央こども家庭相談センター
(プレイルーム)

【林業及び木材産業の振興】

産業振興の強化と安定した就業の場の確保

(1) 県産材の利用推進 ② 県産材を用いたくらしの道具・家具・土産物等の開発・商品化

○ 県産材を用いたくらしの道具・家具・土産物などを開発・商品化し、より多くの方々に奈良の木の良さを身近に感じていただき、県外からの観光客にも土産物として販売するなどにより、県産材の利用拡大に繋げていく

○ 県産材を使用したくらしの道具・家具、土産物、ノベルティグッズを通じて県産材の良さをPR

平成25年度

- 奈良の木を使用したくらしのデザイン、土産物の開発・商品化
 - ・ 奈良女子大学と連携して県産材を使用したくらしの道具20点を開発
 - ・ プロジェクトチームにより開発された土産物(吉野杉箸など4点)を商品化
- 森林環境教育の推進
 - ・ 県産材を使用した機能性とデザイン性に優れた使いやすい学習機の開発及び導入支援等



シュガーポット



吉野杉夫婦箸

平成26年度

- 奈良の木を使用したくらしの道具、土産物の商品化の推進
 - ・ 奈良女子大との連携事業により開発したシュガーポットなどくらしの道具を商品化
 - ・ H24年度にPTチームが開発した土産物や吉野材をつかった暮らしの道具デザインコンペ 入賞作品等を見本市に出展するなどにより商品化を推進
- 森林環境教育の推進
 - ・ 小中学校及び特別支援学校へ、県産材を使用した機能性とデザイン性に優れた使いやすい学習機の導入を支援
 - ・ 公共施設等へ県産材を使用したベンチを設置
- 奈良県PRグッズの開発
 - ・ 奈良県で開催される各種イベント参加者に県産材を使用して作られたノベルティグッズを配布し、奈良県及び県産材の魅力をPR



県産材学習机



県産材ベンチ

【林業及び木材産業の振興】

産業振興の強化と安定した就業の場の確保

(1) 県産材の利用推進 ③ 県産材の販路開拓・流通拡大支援

○県内外での販路拡大や、ユーザーニーズに対応した県産木材製品の提供等により、県産材の一層の需要拡大を図る

- 首都圏への新たな販路開拓及び木づかい運動の推進により県産材の利用拡大を図る
- ハウスメーカーや工務店等における県産材利用に対する要望に対応できる新たな木材製品を開発



奈良の木フェア
「知事トップセールス」

平成25年度

- 県産材首都圏販路の拡大
 - ・東京都内において「奈良の木フェア」を開催(来場者約260名)
 - 「知事トップセールス」「県内木材事業者によるPR商談会」などを実施
- 奈良の木のお店・宿の拡大
 - ・京阪神地域で県産材を使用した粋なお店・宿デザインコンペを実施(応募17作品)
- 新たな県産木材製品の開発
 - ・大手ハウスメーカー等が持つ県産材利用に対するニーズと奈良県森林技術センターが有する技術シーズとのマッチングにより、県産材キッチンなどを開発

奈良県産材を使用した
喫茶店(大阪府)



平成26年度

- 県産材の首都圏への販路開拓
 - ・「奈良の木ツアー」「奈良の木フォーラムIn東京」の開催、「奈良の木通信」による情報発信により販路を拡大
- 奈良の木づかいPR
 - ・10月を「奈良の木づかい運動推進月間」と定め、県産材利用のPRを強化
- 新たな県産木材製品の開発
 - ・顧客ニーズに対応した県産木製品の開発を支援

新たな木材製品の開発
(県産材キッチン)



【林業及び木材産業の振興】

産業振興の強化と安定した就業の場の確保

(2) 木質バイオマスの利活用

- 林業の振興、雇用の創出及び循環型社会を構築する
- 県産材を利用した木質バイオマス活用可能性調査の実施と具体の地産地消型導入モデルを検討する
- 紀伊半島大水害において、甚大な被害が発生した県南部地域において、木質バイオマスを活用した復旧・復興支援策を検討する

○H25年度の実証実験を踏まえ、具体の課題解消に向けた取組みを推進

平成25年度

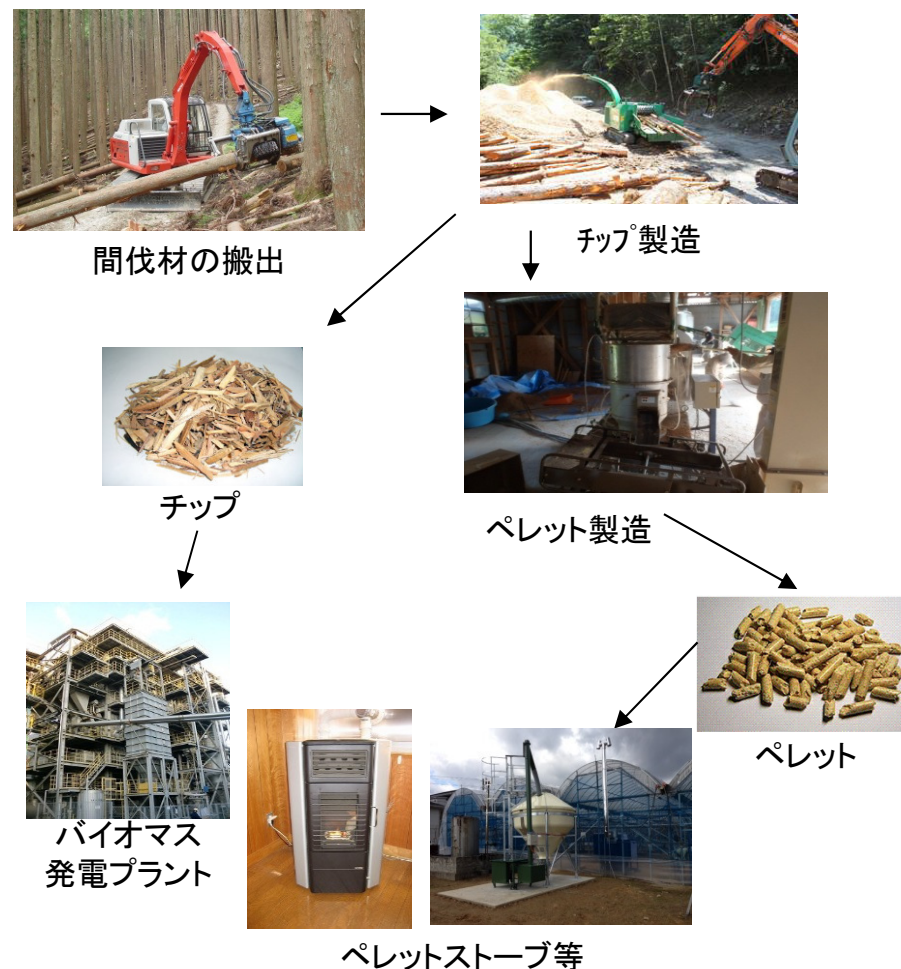
○木質バイオマス実証実験

- ・県有林を利用した木質バイオマスの利用推進に向けた実証実験の実施
- 原料木材搬出低コスト化の検証、チップ・ペレットの効率的製造工程の検証、熱利用効果の検証
- 7月～ 9月 県有林から原料木材の搬出
- 8月～10月 御杖村においてペレット製造
- 9月～10月 デモンストレーション、市町村や関係事業者へ報告会を実施
- 11月～ ペレットストーブ等の導入(南部農林振興事務所、五條土木事務所等)

平成26年度

○木質バイオマス利用拡大に向けた各種課題解決の取組みを推進

- ・奈良型に改良した木材搬出機械の購入
- ・原料用木材買い取りモデル事業の実施
- ・ペレット製造ラインの改善
- ・市町村への木質バイオマス利活用計画策定への支援 など



【林業及び木材産業の振興】

産業振興の強化と安定した就業の場の確保

(3) 森林の生産能力の向上

○木材生産林において、奈良型作業道の重点開設などにより、木材生産コストを縮減することで、木材の生産拡大と安定供給を図り、就業の場を確保する

木材生産量の増加 14万 m^3 (平成22年度) → 23~25万 m^3 (平成32年度)

○まとまった森林区域で、木材生産コスト縮減に取り組む意欲ある林業事業者に対して支援

- ・奈良型作業道の重点開設
- ・木材生産(利用間伐)の強化
- ・林業機械の導入・レンタル
- ・実践的な研修の実施

～平成25年度

8団地の林業事業者へ支援

- ・平成23年度 4団地選定(天川村、上北山村、川上村、東吉野村(一部吉野町))
- ・平成24年度 4団地選定(五條市、下市町・黒滝村、十津川村、下北山村)
- ・平成25年度 既選定の2団地(黒滝村・天川村)において、周囲の森林を取り込み、集約化区域を拡大

平成26年度

- ・県全体で2団地選定し、林業事業者への支援を継続
- ・架線集材施設の設置に対する支援をモデル的に実施し、路網と架線を組み合わせた出材システムを検証



2 t ダンプによる木材搬出



架線用集材機械の研修

【公的関与による森林環境管理制度の導入】

産業振興の強化と安定した就業の場の確保

森林保全の持続的かつ安定的な発展を目的とし「森林環境管理制度」を導入する

- 森林の「公益的機能」及び「生物多様性」の保全などに主眼をおいた管理制度を「森林環境管理制度」と定義する
- 経済活動に依存せず、森林環境を管理する制度の検討

平成26年度

○森林環境管理制度導入の検討

森林環境管理制度導入検討会の開催

森林の「公益的機能」及び「生物多様性」の保全などに関する学識経験者を招いて、導入に関する検討会を開催

国内事例調査

愛媛大学大学院農学研究科 森林管理特別コース

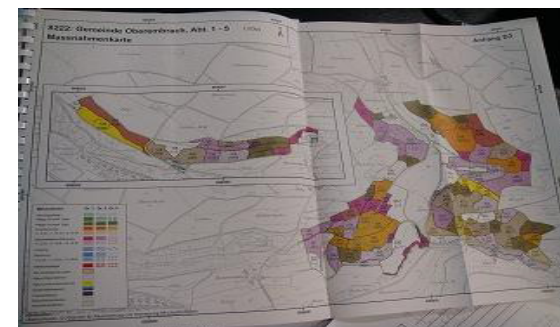
欧州先進地調査

スイス他

持続的な森林管理体制等について調査



GPS等を利用した管理



環境に配慮した管理計画

【拠点商業施設による地域振興】

産業振興の強化と安定した就業の場の確保

「まほろばキッチン」を活用した農産物の販売促進、情報発信

- 旧耳成高校跡地は南部地域への入口にあたる場所(南北の幹線国道169号と中和幹線の結節点)
- 南部地域の農業振興
- 南部地域の魅力を発信する拠点

- 平成25年4月14日、グランドオープン
- コンセプトは「食・農・観」の共生

【施設概要】

- ・農産物直売所「うねび」(面積 1,236㎡)
- ・レストラン
産直レストラン「かぐやま」(バイキング、134席)
特選レストラン「Tokiwa」(フレンチ、22席)
フードコート「みみなし」(うどん、すし等、64席)
- ・観光案内所
コンシェルジュ3名(常時2名)を配置
電子機器を活用した旬の観光情報の提供

平成25年度～

- 出荷者のための研修会
- 県産農産物等PRフェアの開催
- 南部地域観光イベントの開催

大型農産物直売所

- ・生産者にとって、身近なマーケティングの場
- ・地産地消の推進
- ・地域全体の活性化

目標

年間売上額 10億円
年間来客者数 70万人



まほろばキッチン全景



農産物直売所



産直レストラン



県産農産物等PRフェア

【御所IC周辺のまちづくり】

産業振興の強化と安定した就業の場の確保

京奈和自動車道IC周辺に産業集積地を形成

- 京奈和自動車道御所IC周辺の地域は、南部・中部地域からの通勤圏内
- 就業の場を確保することにより、若年層を中心とした人口流出の阻止、UIターンの促進

- 京奈和自動車道御所IC周辺に企業の立地・集積が可能な産業集積地の形成を検討
- 産業集積地の形成
 - ・県市協働による産業用地の造成
- 企業立地の確保
 - ・中南和地域における通勤圏内での雇用の創出

～平成25年度

- 地元の合意状況、企業立地の可能性、事業費の精査を踏まえ事業化を検討

平成26年度

- 地元協議が整ったことから、産業集積地形成し、民間企業を誘致するプロジェクトを事業化
 - ・測量、設計等
 - ・用地買収(土地開発公社による先行取得)



【「眺望のいいレストラン」の認定・支援】

産業振興の強化と安定した就業の場の確保

「眺望のいいレストラン」を認定し、「食」の魅力を活かした誘客の促進

- 「食」の魅力を求めて南部地域を訪れる人の流れを創出
- 外部との交流により、住民の地域に対する誇りを喚起し、おもてなしの気運を醸成

- 県産農産物を活用した美味しい「食」と、素晴らしい「眺望」をリンクした魅力的なレストランを展開し、県産農産物の生産・流通の促進と、誘客を促進

～平成25年度

- 「眺望のいいレストラン」認定11店 協定3店
(うち南部地域内認定2店、五條市、高取町
協定1店、吉野町)
- 「大和の旬の食材フェア」の実施
- 各種メディアを通じた広報
- 認定・協定レストランへの支援: 専門家派遣等

平成26年度

- 「大和の旬の食材フェア」実施
- 各種メディアを通じた広報
- 認定・協定レストランへの支援: 専門家派遣

奈良で最上の眺めと味を楽しむ



日本薬膳 茶寮 花大和



レストラン よしの川からの眺望

【地域特産物の生産・販売の促進】

産業振興の強化と安定した就業の場の確保

地域特産物の生産力向上・ブランド化及び販路開拓の推進

○南部地域の特産物である柿(リーディング品目)やサクランボ(チャレンジ品目)、薬用作物の生産・販売を強化することにより南部地域を活性化する

- 柿
 - ・老木園について、大苗の共同育成と改植などの生産力向上の取組みを支援
 - ・高品質で特徴のある果実を安定的に生産・出荷する取組みを支援
- サクランボ
 - ・安定生産技術の定着と販売PRに向けた取組みを支援
- 薬用作物(トウキ等)
 - ・安定・省力・低コスト生産技術を確立
 - ・優良系統を選別し、現地で普及



柿大苗育成

平成25年度

- 果樹産地のリフレッシュ : 柿改植面積403a(五條市)
大苗の共同育成3, 347本(6グループ)
- サクランボへのチャレンジの支援 : 新規生産者3名(新規植え付け面積10a)
- 奈良の柿プロモーションの強化推進
 - ・首都圏での「奈良の柿」ラジオCM放送、タイ向け輸出量 40t
- 奈良の薬用作物生産振興促進
 - ・安定生産技術の実証等の取組み(五條市、明日香村、黒滝村、十津川村、下北山村)
 - ・薬用作物の栽培実証圃の設置(五條市 県果樹振興センター)



富有の結実状態



サクランボ栽培

平成26年度

- 果樹産地のリフレッシュ: 柿大苗の共同育成支援、柿老木園の改植支援
- サクランボへのチャレンジの支援 : 増産へ向けた生産対策、共通パッキングデザイン導入等支援
- 柿高品質果実安定供給の推進
 - ・ブランド強化に資する新技術を開発、特徴ある品種導入を支援
- 薬用作物生産振興の促進
 - ・生産技術の確立および優良系統の選抜、開発された技術の現地実証
- 新たな地域特産品生産への着手(明日香村・橘、東吉野村・ゆず) -22-



圃場のトウキと根

【農林水産業による地域の復興応援】

産業振興の強化と安定した就業の場の確保

地域の誇りとなる特産物の振興等による南部地域の活性化

- 南部地域の特色ある農林水産物を活かした地域の誇りとなる地域特産物の生産振興と販売促進を図る
- 平成26年11月開催の「第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～」及び関連イベント等における特産品の販売促進により南部地域を活性化する

- 地域の誇りとなる特産物・加工品・土産物の発掘・開発・販売に対する復興応援

平成25年度

- 地域特産物による加工品開発・販路開拓等の取組応援(8市村・6品目)
 - ・五條市、野迫川村、十津川村、天川村、黒滝村、川上村、上北山村、下北山村
 - ・山椒(佃煮)、ワサビ(わさび大福)、タカナ(めはり寿司、漬け物)、木材(木工品「ひのきの花」)、アマゴ(フレーク、卵醤油漬)、白キュウリ(漬け物)
 - ・吉野フェア(大和郡山イオン)やまほろばフェア(まほろばキッチン)で開発商品の試食・販売を実施
- 薬用作物の生産・加工品の開発支援
 - ・五條市、明日香村、黒滝村、十津川村、下北山村(トウキ等)
- 「第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～」1年前プレイベントの開催
- なんゆう祭(南部地域産業復興推進大会)の開催
 - ・南部12市町村の物産展等
- 市町村の物産展開催経費等への補助(9市町村)

平成26年度

- 「第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～」の開催
- (仮称)地域の誇りとなる特産物物産展の開催(海づくり大会関連行事)
- 市町村の物産展開催経費等への補助(10市町村を予定)



沢わさび



わさび大福



山椒の佃煮



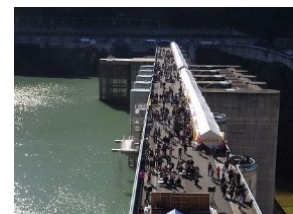
タカナの「めはり寿司」



木工品
「ひのきの花」



アマゴのフレークと卵醤油漬



なんゆう祭(物産展)

【鳥獣被害対策と野生獣の有効活用】

産業振興の強化と安定した就業の場の確保

総合的な鳥獣被害対策の推進と捕獲したシカ、イノシシ等の有効活用

○農林水産業に係る野生鳥獣被害を軽減するとともに、捕獲したシカ、イノシシ等を有効活用することにより、農林水産業をはじめとする地域産業の活性化を図る

○鳥獣被害対策

国の交付金事業を活用しながら、地域協議会と連携し、市町村が作成する被害防止計画に基づく取組み等を総合的に支援

○捕獲した野生獣の有効活用

深刻な被害をもたらすシカ、イノシシ等の野生獣について、捕獲したものの食材等への有効活用を促進

共同作業による侵入防止柵設置作業



～平成25年度

○鳥獣被害防止対策

- ・事業実施市町村 10市町村(五條市、御所市、高取町、明日香村、吉野町、大淀町、下市町、天川村、上北山村、下北山村)
- ・箱わな等整備 107基(ニホンジカ、サル、イノシシ等)
- ・狩猟免許取得推進 20人
- ・有害鳥獣侵入防止柵整備 58.3km(金網柵、電気柵等)

○獣肉処理加工施設の整備(上北山村)



獣害防護柵

平成26年度

○鳥獣被害防止対策等

- ・事業実施市町村 9市町村
- ・被害防除研修の実施
- ・箱わな等整備
- ・狩猟担い手の育成推進
- ・有害鳥獣侵入防止柵整備

○獣肉処理加工施設の建設(五條市)

○供給確保、販路開拓等による獣肉利活用事業の安定化(上北山村)



獣肉処理加工場(上北山村)

【コミュニティビジネスによる山村地域の雇用創出】

産業振興の強化と安定した就業の場の確保

コミュニティビジネスの開発・育成による就労の場の拡充

- 地域資源を活用したビジネスアイデアと実現プランを有する意欲的な取組みを支援
- 南部に新しい地域経済の担い手、職住接近の働き場所を創出することにより、地域外の人材の定着のための受け皿づくりと地域コミュニティの再生

- 地域の課題解決のためのコミュニティビジネスの立上げへの支援、その後の安定的な事業活動の確保
 - ・コミュニティビジネスに取り組む組織設立の検討
 - ・コミュニティビジネスを担う人材の育成、派遣等
 - ・コミュニティビジネス創業への支援、創業後の安定的、継続的なビジネス展開方策の検討

【下北山村における取組】

～平成25年度

- 団体設立 名称「下北山村生活支援隊サポートきなり」
- 活動拠点の整備
- 人材の育成・派遣
 - ・ふるさと復興協力隊(県・2名)、地域おこし協力隊(村・1名)、集落支援員(村・1名)の配置
- 支援事業の実施
 - ・農業支援 遊休農地での農業生産(農業用ハウスでの下北春まな栽培、獣害回避作物の露地栽培 他) 村民を対象とする有機農業勉強会の開催、土曜朝市の開催、加工品の試作
 - ・草獣対策支援 草刈り作業(草刈り応援隊創設)及び蜂の巣除去作業の実施
- 新たな支援事業の検討
 - ・暮らし支援 過疎地有償運送の導入検討

平成26年度

- 過疎地有償運送による交通弱者対策(買い物、通院)の実施
- 高齢者住宅の清掃、片付け等の実施
- 空き家管理のための調査



土曜朝市



草刈り応援隊



農業用ハウス

(2) 安全、安心、快適な生活を支える社会基盤の整備

- 安心が実感できる医療・福祉の体制づくり
 - (1) 南和地域の医療提供体制構築
 - (2) 南部地域在宅医療・包括ケアシステムの構築による健康長寿の推進
- 新しい集落づくり
- 清流吉野川の保全
- 災害に強い紀伊半島の実現
- 魅力と活力ある地域づくりを支える道路整備
- 移動手段の確保
- 防災力の向上
- 日常生活支援サービスシステムの構築

【安心が実感できる医療・福祉の体制づくり】

安全、安心、快適な生活を支える社会基盤の整備

(1) 南和地域の医療提供体制構築

- 南和地域での安定的な医療を提供する体制の維持、確立
- 住民への切れ目のない医療の提供

○公立病院新体制整備を推進

- ・南和地域12市町村と県で構成する南和広域医療組合を事業主体に3つの公立病院の役割分担、機能再編、経営統合を行い、医療提供体制を再構築
- ・併せて、地域やへき地の医療機関、県立医科大学との連携体制を確立

○へき地医療への支援

- ・へき地医療を担う「総合医」や看護師等の育成・確保
- ・へき地の医療機関の施設・設備の整備に対する支援
- ・ドクターバンクによる医師の紹介・斡旋と県立医大における医師派遣システムの確立

○ドクターヘリ等による重篤患者の搬送体制の確保

- ・ドクターヘリの共同利用(H14～)
- ・県独自のドクターヘリの導入調査・検討

～平成25年度

- 「南和広域医療組合」設立(H24.1.23)
- 南和広域医療組合が行う南和地域公立病院新体制整備への支援
- 県独自のドクターヘリ導入に向けた調査・検討
- へき地診療所の医師確保に対する支援
- へき地診療所の医療設備整備に対する支援(五條市・川上村)

平成26年度

- 南和広域医療組合が行う南和地域公立病院新体制整備への支援
- へき地診療所の医師確保に対する支援
- 県立医大における、(仮称)県立医大医師派遣センターの設置及び県費奨学生配置センターの運営

南和地域公立病院新体制 医療施設整備



救急病院

大淀町福神地区に新設



地域医療センター

国保吉野病院を改修



地域医療センター

県立五條病院を改修

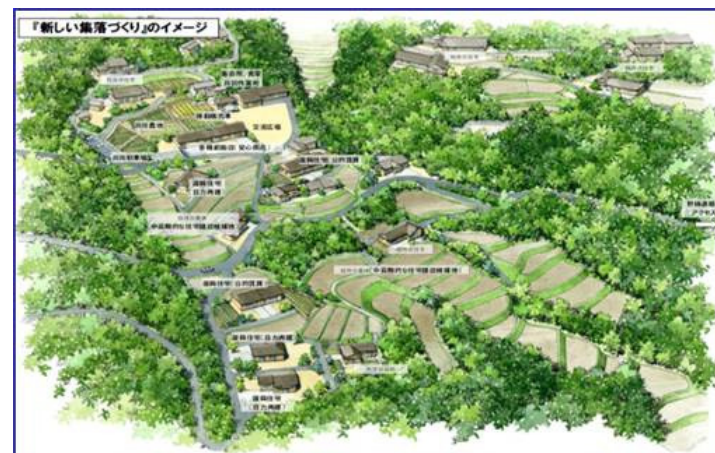
【新しい集落づくり】

安全、安心、快適な生活を支える社会基盤の整備

将来にわたり住み続けることのできる持続可能な集落の形成

- 安全、安心で住み心地が良く、地域コミュニティが維持されるような集落づくり
- 働き口があって自立でき、交流が促進され、人が集まるような集落づくり

- 幹線道路へのアクセスが確保された安全な地域での新しい集落づくり
- 大規模な造成でなく、自然の地形、環境、風景や既存施設も活かした集落づくり
- 気候風土、美しい山村風景、住民の暮らし方に対応した持続可能な住まいづくり、集落づくり
- 医療、介護・福祉、交流、宿泊、防災(防災拠点や避難所)などの機能を確保する集落づくり
- 将来的に、小規模集落を集約できる集落づくり
- 地元産材を使った地元工務店による地域循環型の住宅建設生産システムの構築を図り、林業の6次産業化を推進



平成25年度

- 復興住宅建設等への支援
 - ・市村が行う公的住宅等建設に対する補助及び復興まちづくりに必要となる各種施設の計画策定を支援
- 地域で暮らし続けるための仕組みづくり
 - ・「地域包括ケアシステム」等の構築に向けた取組みを支援
- 新しい集落づくり計画の検討
 - ・地元市村や住民とともに、安心拠点集落としての総合的な復興まちづくりの構想の策定を支援



十津川村公営復興住宅

平成26年度

- 「新しい集落づくり」に関連する取り組み
 - ・市村が行う公的住宅等建設に対する補助及び復興集落づくりに必要となる各種プロジェクトの計画策定等の支援
- 地域で暮らし続けるための新しい集落づくり
 - ・安心拠点集落としての総合的な復興まちづくりプロジェクトの進捗管理を支援
- 地域で暮らし続けるための仕組みづくり
 - ・「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取組を支援

【清流吉野川の保全】

安全、安心、快適な生活を支える社会基盤の整備

吉野川の清流を守る流域全体での保全対策の推進

○命の水の供給源であり、奈良県を代表する清流として来訪者に親しまれ、観光資源、憩いの場、交流の場ともなっている吉野川の保全

○健全な水循環の実現を目的とする庁内部局横断対策チームでの取組を推進
○河川環境の保全等について関係機関との連携を推進

～平成25年度

- 瀬切れ対策連絡調整会議（構成員：国交省、農水省、県、吉野3町、関西電力）を設置（H22年3月）
- 庁内関係課による対策チームの設置（H22年5月）
（瀬切れ対策班、水源地域対策班、河川生態系保全班、環境保全班）
- 伏流しがちな箇所を選定し、水量に見合った流路幅確保のための河道掘削を実施
- （仮称）紀の川・吉野川流域連携協議会の設置に向けた国等との協議

平成26年度

- 紀の川・吉野川流域のダム群連携などによる河川環境の保全等を協議する（仮称）紀の川・吉野川流域連携協議会の設置
- 第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～の開催（H26年11月）
- 吉野土木事務所による河川パトロール（瀬切れ等）の実施

【吉野川の状況】



【災害に強い紀伊半島の実現】

安全、安心、快適な生活を支える社会基盤の整備

「紀伊半島アンカールート」の早期整備

○大規模災害時における地域の孤立を防ぎ、救命・救急活動や緊急物資輸送ルートを確認する

「紀伊半島アンカールート」の早期整備

- 京奈和自動車道の整備促進
- 国道168号「地域高規格道路五條新宮道路」の早期整備
 - ・「五條十津川道路」の直轄権限代行として国による早期事業化
 - ・事業中区間の早期完成
- 国道169号の早期整備
 - ・新伯母峯トンネルの早期事業化
 - ・事業中区間の早期完成

～平成25年度
(供用箇所)

- ・京奈和自動車道の一部供用(榎原高田IC～御所IC)
(平成24年3月25日 暫定2車線供用済)
- ・国道168号旭口道路供用(平成23年8月3日 供用済)
- ・国道168号十津川道路の一部供用(平成23年9月19日 供用済)
- ・国道169号上北山道路の供用(平成24年3月31日 供用済)

(事業の推進)

- 京奈和自動車道の整備促進
 - ・京奈和自動車道大和御所道(御所区間) ※
- 国道168号「地域高規格道路五條新宮道路」の早期整備
 - ・国道168号辻堂バイパス ※
 - ・国道168号長殿道路 ※
 - ・国道168号川津道路
 - ・国道168号風屋川津・宇宮原工区(平成25年度新規事業化) ※
 - ・国道168号十津川道路 ※
- 国道169号の早期整備
 - ・国道169号奥瀬道路Ⅱ期 ※ (※国事業)



国道168号十津川道路(十津川村折立～小原)



復旧工事が完了した国道168号 折立橋 H26.1.31完了



事業中の国道168号辻堂バイパス(五條市大塔町)

平成26年度
(国への要望)

- ・国道168号「地域高規格道路五條新宮道路」の早期整備
- ・国道169号の早期整備
- (事業の推進)
- 京奈和自動車道の整備促進
 - ・京奈和自動車道大和御所道(御所区間) ※
- 国道168号「地域高規格道路五條新宮道路」の早期整備
 - ・国道168号阪本工区国庫補助採択要望
 - ・国道168号辻堂バイパス
 - ・国道168号風屋川津・宇宮原工区 ※
 - ・国道168号長殿道路 ※
 - ・国道168号川津道路
 - ・国道168号十津川道路 ※
- 国道169号の早期整備
 - ・国道169号奥瀬道路Ⅱ期 ※ (※国事業)

【魅力と活力ある地域づくりを支える道路整備】

安全、安心、快適な生活を支える社会基盤の整備

効率的・効果的な道路整備を推進

- 安全、安心で快適な暮らしの提供
- 企業立地や観光振興などによる地域経済の活性化

- 「道路整備基本計画」の策定
 - ・「奈良県道路の整備に関する条例」に基づき、総合的かつ計画的な道路整備を図るための基本計画を策定
- 信頼性のある道路ネットワークの形成
 - ・京奈和自動車道のアクセス道路の重点的整備
 - ・国道309号等の重点的な整備
- 暮らしをつなぐ道路防災の実施
 - ・道路ネットワークを遮断させない観点を重視した危険箇所の防災対策の実施
- 予防保全による橋梁の長寿命化
 - ・「事後保全」型維持管理から「予防保全」型維持管理への転換により、橋梁の維持管理コストを削減
 - ・橋梁のマネジメントサイクルを確立し、継続的な維持管理を図る

～平成25年度

- 「奈良県道路の整備に関する条例」の制定(平成25年3月)
(供用箇所)
 - ・国道309号丹生バイパスの一部供用(平成23年4月28日供用済)
- (事業の推進)
 - 地域を支える主要な道路の整備
 - ・国道309号丹生バイパス など
 - 暮らしをつなぐ道路防災
 - ・国道168号(十津川村桑畑)など
 - 予防保全による橋梁の長寿命化
 - ・栄山寺橋:(一)平原五條線(五條市小島町)など



主要な道路の整備
(国道309号丹生バイパス)



道路防災対策(一般国道168号)



橋梁の長寿命化
(一般県道平原五條線:栄山寺橋)

平成26年度

- 「道路整備基本計画」の策定
(事業の推進)
 - 地域を支える主要な道路の整備
 - ・国道309号丹生バイパス など
 - 暮らしをつなぐ道路防災
 - ・国道168号(十津川村宇井)など
 - 予防保全による橋梁の長寿命化
 - ・伯母谷大橋:国道169号(川上村伯母谷)など

【移動手段の確保】

安全、安心、快適な生活を支える社会基盤の整備

移動ニーズに応じた交通サービスの実現

- 移動環境を社会インフラのひとつと位置づけ、その改善に取り組む
- 買い物、通院、観光といった移動ニーズを踏まえた「交通サービス」の実現

○暮らしを支えるバス交通の確保

- ・県、市町村、交通事業者などの関係者による「奈良県地域交通改善協議会」において、急速な少子高齢化や過疎化等に伴う地域の多様な交通ニーズを踏まえた交通サービスの実現

○市町村のコミュニティバス等への支援

- ・地域の実情に応じた生活交通の確保に向け、市町村が主体となった地域公共交通（コミュニティバス等）の取組みに対する支援を実施
- ・過疎地域における移動手段確保に向けた、広域通院ラインの本格運行等の地域の実情に応じた取組みの支援

～平成25年度

○交通基本戦略の推進

- ・「奈良県地域交通改善協議会」により、地域交通の維持確保の方向性及び改善方策を検討

○路線バスに対する支援

○コミュニティバス等の効率化に向けた取組みに対する支援

○過疎地域の移動手段の確保

平成26年度

- 「奈良県地域交通改善協議会」により、地域交通の維持確保の方向性及び改善方策を検討、関係者間で協議

○(仮称)奈良県公共交通基本計画の策定

○路線バスに対する支援

○コミュニティバス等の効率化に向けた取組みに対する支援

□広域通院ライン



【防災力の向上】

安全、安心、快適な生活を支える社会基盤の整備

地域コミュニティによる防災力の向上と支援体制の強化

- 市町村及び地域の活動組織を基盤とする防災力の向上
- 自衛隊の誘致による大規模災害への備え

- 地域の防災力の向上
 - ・自主防災組織率の向上
 - ・自主防災活動のサポート
 - ・地域住民の防災意識向上のための啓発と人材育成
 - ・地域消防力の充実
 - ・避難所の機能強化
 - ・災害時の情報伝達手段の確保
 - ・市町村地域防災計画の見直し
- 南海トラフ巨大地震等大規模災害への即座の対応のため、陸上自衛隊駐屯地を五條市に誘致



消防署の指導による自主防災組織の訓練

～平成25年度

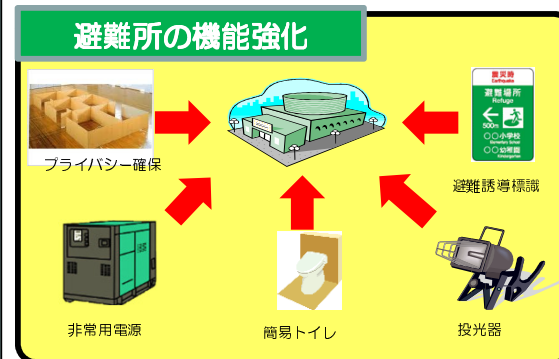
- 自主防災活動への支援(県政出前トーク、アドバイザー派遣、リーダー研修、交流会、自主防災訓練支援、地域の防災向上支援等)
- 消防団の充実支援(消防大会・出初式開催・施設整備助成)
- 女性防火・防災クラブ充実支援(研修会等)
- 避難所の機能強化のための支援
- 市町村地域防災計画の見直しの支援
- 先進事例調査(徳島県等)、訓練実施・講演会の開催等地元地域の気運醸成、自衛隊誘致について政府要望



第14回 奈良県消防大会

平成26年度

- 自主防災活動への支援(県政出前トーク、アドバイザー派遣、リーダー研修、自主防災訓練支援事業、地域の防災力向上支援ワークショップ等)
- 消防団の充実支援(消防操法大会・出初式開催・施設整備助成)
- 女性防火・防災クラブ充実支援(研修会等)
- 避難所の機能強化のための支援
- 市町村地域防災計画の見直しの支援
- 陸上自衛隊駐屯地等の配置要望、五條市との検討会の実施及び陸上自衛隊が行う調査への協力、自衛隊の理解促進のための県民向けイベント等の実施
- 広域防災拠点(防災基地)整備のための基本構想策定



【日常生活支援サービスシステムの構築】

安全、安心、快適な生活を支える社会基盤の整備

買い物代行、宅配による高齢者等の生活支援サービスの導入

○過疎化・高齢化が著しい小規模集落でも、住み続けたいと願う高齢者等の生活支援

- 買い物の利便性向上のための仕組み、担い手となる組織づくりについて、市町村とともに検討
- 買い物代行、宅配サービス事業等の実施に向けた取組みを支援
- 実施効果を検証し、他地域への普及拡大を検討

平成24年度～（五條市）

- 県のふるさと復興協力隊員（生活支援3名）の配置
- 地元NPOと財団に所属し、担当区域を分けたサービスを展開

平成26年度（下北山村）

- 下北山村生活支援隊「サポートきなり」による過疎地有償運送による交通弱者対策（買い物支援、通院サービス）、高齢者住宅の清掃・片付け等の生活支援の実施



仮設住宅への買い物支援
（五條市）

(3) 地域の魅力資源を活かした観光・交流の促進

- 明日香の魅力向上
- 観光の情報発信・魅力創出
- 「吉野・高野・熊野の国」事業による観光振興
- 森林を活用した地域づくり
- 宿泊施設の整備
- 一市町村一まちづくり
- 水源地域での交流拠点づくり
- 空き家・空き建築物の活用による交流拠点施設等の整備
- 南部地域におけるスポーツの振興
- 南部地域における自転車利用促進
- 南部周遊観光の推進

【明日香の魅力向上】

地域の魅力資源を活用した観光・交流の促進

第4次明日香村整備計画の推進により明日香の魅力向上を図り、南部地域への観光・交流を促進

- 第4次明日香村整備計画により、歴史展示の推進及び歴史的風土の維持・向上を図る
- 明日香の魅力向上・地域力向上を図ることで、南部地域への観光・交流を促進

- 国家基盤が形成された地に相応しい歴史展示の推進
 - ・明日香の歴史をわかりやすく展示(テーマに即した人物によるエピソード等を映像等で解説)
 - ・拠点施設整備・遺跡の整備等(拠点施設の整備を検討するとともに飛鳥京跡苑池を復元整備)
- 歴史的風土の維持・向上
 - ・明日香に相応しい景観形成(景観条例・計画の策定、新たな公との連携など)
 - ・景観阻害要因の改善等(景観阻害建築物・工作物の撤去、無電柱化の推進など)
- 歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上
 - ・明日香が支える「農」の維持・再生(地域産業としての農林業の充実、耕作放棄地への対応など)
 - ・観光・交流の振興(明日香の魅力発信、観光基盤の整備、賑わいの拠点形成など)
 - ・住みたくなる村づくり(定住対策の推進、土地利用のあり方の検討など)
- 地域活力を支える生活環境基盤整備の推進
 - ・道路整備、上下水道整備、都市公園の整備など



インバウンドの受入風景

平成25年度

- アプリケーションソフト「なら飛鳥京歴史ぶらり」の普及促進
- 飛鳥京跡苑池の南池遺構の環境調査及びメインテナンスの実施設計に着手
- 飛鳥京跡苑池の発掘調査
- 教育旅行・インバウンドの受入推進のための取組の実施

平成26年度

- アプリケーションソフト「なら飛鳥京歴史ぶらり」の普及促進
- 飛鳥京跡苑池のメインテナンスの造成工事及び休憩所・便所の建築設計
- 飛鳥京跡苑池の南池周辺の実施設計に着手
- 東京国立博物館特別展「キトラ古墳壁画」及びPR展の開催



飛鳥京跡苑池南池発掘状況

【観光の情報発信・魅力創出】

地域の魅力資源を活用した観光・交流の促進

地域資源を活かし、周遊型観光地としての魅力を高める

- 自動車での周遊観光の促進による地域の活性化
- 交流人口の増加
- 滞在時間の増加
- 宿泊観光客の増加

- 「道の駅」やJAならけんまほろばキッチン内観光案内所、サービスエリアを活用したドライバー向けの観光情報の発信
 - ・ドライバーへのタイムリーな観光情報の提供によるマイカーでの周遊観光施策の展開
- 観光プロモーション
 - ・雑誌、ウェブを活用した情報発信
 - ・イベント実施
- 魅力創出・着地整備
 - ・農家民宿創出支援
- 「弘法大師の道」魅力発掘



「弘法大師の道」
トレイルランニング

平成25年度

- 高野山開創1200年に向けた「弘法大師の道」を活用したトレイルランニングの開催（吉野山金峯山寺～高野山金剛峯寺）
- 首都圏における観光プロモーション
- 農家民宿の開業支援
 - ・セミナー開催及びHPのリニューアル
- JAならけんまほろばキッチン内観光案内所における観光情報発信
- ホテル担当者向けファミツアーの実施
- 林業・木材産業（森林、製材工場群等）と吉野川水系（大滝ダム、水源地の森）の資源を使ったニューツーリズムの商品化（吉野町、川上村）
- 天誅組大和義挙150周年事業の取組（五條市、安堵町、十津川村、東吉野村）

平成26年度

- 高野山開創1200年に向けた「弘法大師の道」を活用したトレイルランニングレースの開催（吉野山金峯山寺～高野山金剛峯寺）
- 首都圏における観光プロモーション
- 農家民宿の開業支援
 - ・先進地視察及びHPのリニューアル
- 外国人富裕層誘客のためのホテル担当者、ランドオペレーター、雑誌編集者向けファミツアーの実施
- キッチンカーを活用した南部地域の「食」のプロモーションの実施
- 南部・東部地域活性化イベントの開催
 - ・県・関係市町村で構成する協議会によるイベント等の開催
 - ・地域住民や市町村による地域おこしイベント等の開催の支援

【「吉野・高野・熊野の国」事業による観光振興】

地域の魅力資源を活用した観光・交流の促進

世界遺産等を活用した観光情報の発信と各種イベントの開催、観光拠点施設とのアクセス短縮等に関する奈良県・三重県・和歌山県の連携

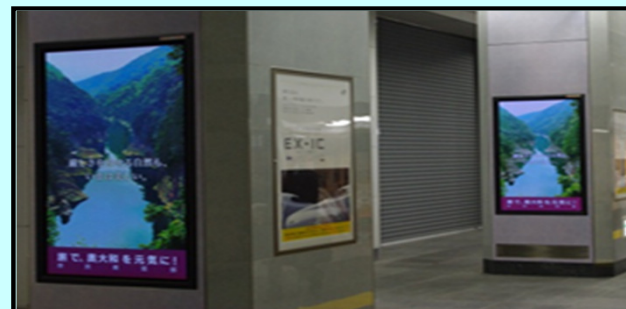
○世界遺産登録10周年を迎える「紀伊山地の霊場と参詣道」の認知度・理解度を高め、来訪者、特にリピーターや長期滞在者の増加に向けた3県の広域的な連携・取り組み

<事業実施実績>

- 平成24年度 PRイベント、雑誌掲載、web用PR映像、駅構内で「見る」映像ポスター広告「デジタルサイネージ」
- 平成25年度 「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録10周年記念サイトの開設によるインターネットでのプロモーション、「雑誌掲載」、「デジタルサイネージ」等による首都圏を中心としたプロモーション



10周年記念サイト



デジタルサイネージ



- ※ 今後の大きな行事
- 平成26年度 「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録10周年
 - 平成27年度 高野山開創1200年

【森林を活用した地域づくり】

地域の魅力資源を活用した観光・交流の促進

植栽による彩りづくり、里山づくり、森林とのふれあいを推進

○県民や観光客が、四季の彩りを体感し、楽しむ場を、地域の森林資源を活かして整備・提供することにより、山村地域の観光・交流・定住を促進する

○植栽による彩りづくり

県内のビューポイントごとに、具体的な整備方針を想起させるイメージパースを策定し、彩りのある樹木への転換や支障木の除去等を検討

○地域で育む里山づくり

NPOやボランティア団体等の協力を得ながら、放置され荒廃した里山を整備、利活用することで、景観や機能を回復

○森林とのふれあい推進

県内各地で眺望の活用(ながめる)や林内への立ち入り(ふれあい)を目的とした森林整備を実施



川上村一大滝ダム周辺(整備中)



森林イベントの様子

～平成25年度

○植栽による彩りづくり事業

新規整備予定箇所のイメージパースの作成

○地域で育む里山づくり

里山林の整備・利活用 (5箇所)

御所市一榎羅地区、東佐味地区、東持田・鳥井戸地区、明日香村一岡地区、天川村一洞川地区

○森林とのふれあいを推進 森林の整備(10箇所)

御所市一ダイヤモンドトレイル周辺、高取町一高取城趾・土佐街道、吉野町一森林セラピーロード、野迫川村一鶴姫公園周辺、川上村一大滝ダム周辺、天川村一洞川大原山、下北山村一平成の森、上北山村一和佐又山周辺、十津川村一玉置山周辺、黒滝村一森物語周辺

○平成26年度新規整備予定箇所の整備計画策定

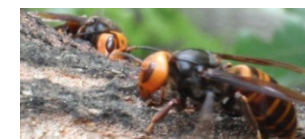
平成26年度

○地域で育む里山づくり

里山林の整備・利活用(明日香村)

○森林とのふれあいを推進

9箇所(継続7、新規2)での森林整備
次年度以降新規実施箇所の調査および計画策定(継続:御所市、野迫川村、黒滝村、天川村、十津川村、下北山村、上北山村
新規:明日香村、川上村)



【宿泊施設の整備】

地域の魅力資源を活用した観光・交流の促進

多様な宿泊施設の創出と宿泊施設の新たな魅力づくりを総合的に支援

- 地域資源を活用した多様な宿泊施設の立地促進及び質の充実を図る
- 南部地域の滞在型観光の振興と消費拡大

- ホテル、旅館、民宿やB&Bなどの多様な宿泊施設を創出、充実するため総合的に支援
 - ・宿泊施設開業や改装等への資金支援
 - ・もてなし向上や旅館街活性化の取組みのサポート
- 地域の特性を活かした宿泊施設の誘致活動を展開
 - ・適地情報、空き家情報等の収集・提供

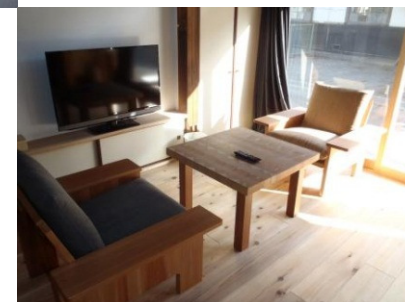
～平成25年度

- 宿泊施設の創出・充実を図るための支援策の推進
 - ・宿泊施設の制度融資の実施(予定含)13件(十津川村他)
 - ・宿泊施設創業及び充実に向けた相談:H25年度(五條市1件、御所市2件、下市町1件、天川村1件、十津川村1件、上北山村1件、川上村1件)
 - ・被災宿泊施設への利子補給の実施(吉野町2件)
 - ・宿泊施設開業マニュアルの刷新
 - ・十津川村 旧武蔵小学校旧教職員住宅を簡易宿泊施設に改修

平成26年度

- 宿泊施設総合支援(支援制度PR、専門家派遣制度の紹介)
- 制度融資
(宿泊施設創業支援資金、既存事業者による宿泊施設開業支援資金、宿泊施設増改築・設備整備支援資金)
- 円滑な創業を図るためのサポート窓口の体制強化
- 被災宿泊施設への利子補給
- 農家民宿の開業支援

宿泊施設に改修
【旧武蔵小学校の教職員住宅(十津川村)】



【一市町村一まちづくり】

地域の魅力資源を活用した観光・交流の促進

地域の特徴を活かした賑わいのあるまちづくり

- 地域の特徴ある資産、歴史、文化、自然、景観を有効活用したストーリー性のあるまちづくり
- まちづくりの成果が地域の誇りとなり、地域の売り、振興につながるようなまちづくり
- 市町村の主体的な参画、住民の理解と協力のもと推進

○五條市(五條新町を核とした賑わいのあるまちづくり)

平成22年度～

- ・検討委員会による五條新町を核としたまちづくりの検討
- ・周遊ツアーや誘客キャンペーンの実施
- ・イベントカレンダーの作成

○明日香村(大字岡、島庄、飛鳥地区における「にぎわいのまちづくり」)

平成24年度～

- ・ワークショップによるまちづくり構想の策定
- ・構想の実施…学生参加による「光の回廊」イベントの活性化 など

○下市町(大字平原地区における「薬草とハーブのむら「へいばら」」)

平成25年度～

- ・ワークショップによるまちづくり構想の策定

○野迫川村(大字北股地区における「自然と人の共生を目指した村づくり」)

平成24年度～

- ・ワークショップによるまちづくり構想の策定

○十津川村(大字谷瀬地区における「吊り橋を活かしたむらづくり」)

平成24年度～

- ・ワークショップによるまちづくり構想の策定

○上北山村(山岳地域の自然環境とスポーツとしての自転車を活かしたむらづくり)

平成24年度～

- ・ワークショップによるまちづくり構想の策定
- ・構想の実施…サイクルマップ作成、案内サイン設置、空気入れ・工具・ラック配置



周遊ツアー(五條市)



ワークショップの開催
(野迫川村)



現地踏査(十津川村)

【水源地域での交流拠点づくり】

地域の魅力資源を活用した観光・交流の促進

大滝ダム湖(おおたき龍神湖)周辺の交流と環境学習の拠点づくり

- 大滝ダム湖周辺の地域資源(ダム湖と自然環境)を活用した環境学習などを実施して吉野川上流域の水源地への理解を深める
- 奥吉野の魅力ある資源と連動し、観光交流を活発にするための交流拠点の形成を行う

- 観光促進のためダム湖やダム湖周辺の施設を活用したイベントや親水レジャー等
- 吉野川源流の原生林の持つ希少価値を活かした環境学習やエコツーリズム等
- 大滝ダムの交流拠点としての魅力をアップするための植栽による彩りづくり

～平成25年度

- 県のふるさと復興協力隊1名、村の地域おこし協力隊6名の配置
- 水源地体験ツアーの実施(平成25年8月)
- 「なんゆう祭」南部地域産業復興推進大会
(南部特産品展、そま人大会、スローライフシンポジウム等)の開催(平成25年11月)
全国豊かな海づくり大会1年前プレイベントやまとの海づくりフェスタin川上と併催
- 大滝ダム湖でのカヤック・カヌーなどの体験イベントの開催(平成25年9月・11月)
- 吉野川水系の資源(水源地の森、大滝ダム等)を使ったニューツーリズムの旅行商品化の取組み(平成25年12月、モニターツアー実施)
- 森林とのふれあいを推進(大滝ダム周辺での森林整備)

平成26年度

- 水源地体験ツアーの実施(平成26年8月予定)
- 第5回全国源流サミットの開催(平成26年9月)
- 大滝ダム湖でのカヌーフェスティバルの開催(平成26年10月予定)
- 大滝ダム周辺でのシー・トウー・サミット等の開催を検討
- 第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～「放流・歓迎行事」の開催(平成26年11月)
- 森林とのふれあいを推進(迫、丹生川上神社周辺での森林整備)



大滝ダム堰堤



おおたき龍神湖



なんゆう祭



カヌー体験



森と水の源流館

【空き家・空き建築物の活用による交流拠点施設等の整備】

地域の魅力資源を活用した観光・交流の促進

空き家等の改修・活用により、地域の活性化やコミュニティの維持再生等を図る

- 空き家となっている古民家等を整備・活用し、交流や定住の促進を図る
- 交流を通して、地域で暮らすことの「誇り」、「自信」を醸成し、住民自らが積極的にまちづくりに参加

- 市町村が事業主体となり、空き家となっている古民家を宿泊施設や資料館等に改修したり、廃校舎や空き庁舎等を交流施設などに改修して活用
- 空き家所有者に対して、活用方法等の情報提供を行い、空き家確保に努める
- 「空き家バンク」の運営についてのノウハウの普及や勉強会の実施

〔市町村の取り組み〕

～平成25年度

- 五 條 市 五條新町の空き家等を改修し休憩所やセミナーハウスとして整備
- 御 所 市 明治時代に建設された旧名柄郵便局を地域拠点施設に改修(H26継続)
- 吉 野 町 廃園となった幼稚園を学童保育施設とボランティア団体の拠点施設に改修
- 川 上 村 廃校になった小学校をセミナーハウスに改修、大阪工業大学との連携事業で交流施設として活用
- 十津川村 旧武蔵小学校(官舎、講堂)を簡易宿泊施設等に改修(H26継続)



五條新町

平成26年度

- 吉 野 町 村内の空き民家を借り上げ改修、町へのUIターン者等に賃貸
- 川 上 村 ①空き家をショートステイ用の住宅に改修
②廃園となった保育園を地域コミュニティ施設に改修



旧名柄郵便局
(御所市)



旧武蔵小学校
(十津川村)

※十津川村、東吉野村での空き家(施設)の活用(改修)を検討

【南部地域におけるスポーツの振興】

地域の魅力資源を活用した観光・交流の促進

南部地域でのスポーツイベントの実施による交流人口の増加

- 奈良の地勢・自然を活かしたスポーツの振興
- スポーツツーリズムの推進とスポーツイベントによるにぎわいづくり
- スポーツイベントの実施に伴う交流人口の増加による地域活性化と周辺観光施設への経済的波及効果
- 平成27年度のインターハイ開催を契機としたスポーツを通じた地域おこし

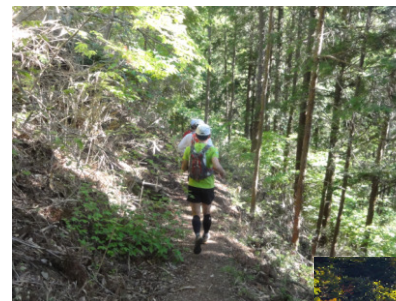
- 自然の循環を体感できるスポーツイベントの開催により、交流人口の増加を図り、地域の活性化を促進する
 - ・トレイルラン、マラニック
 - ・アウトドアスポーツ(カヌーなど)
 - ・サイクルスポーツイベント(ロングライド、ヒルクライム、サイクルツアーなど)
- スポーツイベントの実施を契機として、スポーツ合宿の誘致に取り組む

～平成25年度

- 第22回世界少年野球大会
- 野迫川村・十津川村と連携した小辺路を活用したトレイルランニングツアーイベント
- 山岳グランfondin吉野・ヒルクライム大台ヶ原since2001
- 紀伊半島三県クラブスポーツ大会
- 大滝ダム湖でのカヌーなどの体験イベント
- インターハイ競技開催に向けた市町村等との連携
- スポーツ合宿、大会誘致のための地域資源調査

平成26年度

- 小辺路を活用したトレイルランニングツアーイベント
- 「弘法大師の道」トレイルランニングレースイベント
- 山岳グランfondin吉野・ヒルクライム大台ヶ原since2001
- 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を巡るサイクルフォトラリー
- 紀伊半島三県クラブスポーツ大会
 - (クラブチーム対抗スポーツ大会(十津川村:なぎなた)、クラブスポーツ強化合宿)
- 大滝ダム湖でのカヌーフェスティバルの開催、シー・トゥー・サミット等の開催を検討
- インターハイ競技開催に向けた市町村等との連携
- スポーツ愛好家を対象とするフォーラムの開催



小辺路トレイルジャーニー

大滝ダム湖でのカヌー



ヒルクライム大台ヶ原

【南部地域における自転車利用促進】

地域の魅力資源を
活用した観光・交流の促進

自転車利用促進による滞在型観光の拡大と県民の健康づくり

- 自転車利用環境の改善により、広域的な周遊観光を促進
- 観光振興や地域の活性化とともに、県民の健康づくりや環境にやさしいまちづくりの推進

- 広域的な自転車利用ネットワークの充実
 - ・延長約600km(県全体)に及ぶ広域的な自転車利用ネットワークの形成
 - ・安全対策・案内誘導に係るサイン類の設置、交差点部等での安全対策の実施
- 自転車利用環境の充実
 - ・宿泊施設や運送事業者と連携した取組みの推進
 - ・「自転車の休憩所」の充実・広報の実施
- 情報発信の実施
 - ・サイクリングマップの作成
 - ・地域における自転車の楽しみ方の情報発信

～平成25年度

- 自転車利用ネットワークの充実
 - ・広域的な自転車利用ネットワークにおける、安全対策・案内誘導に係るサイン類の設置等の実施(約600km全線完了)
- 自転車利用環境の充実
 - ・「サイクリストにやさしい宿」を51件(南部地域:五條市1、明日香村3、吉野町12、天川村3、十津川村3、東吉野村3)認定(H25.9末)
 - ・「自転車の休憩所」として97施設(南部地域:五條市2、御所市4、明日香村5、高取町1、吉野町2、大淀町2、黒滝村2、十津川村1、上北山村1、川上村1)を指定(H25.9末)
 - ・自転車搬送及び手荷物搬送事業者と連携協定を締結
- 情報発信の充実
 - ・ならクルマップの作成
 - ・和歌山県と連携した広域マップの作成

平成26年度

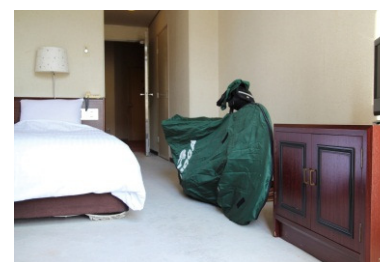
- 自転車利用ネットワークの充実
 - ・広域的な自転車利用ネットワークにおける、広域案内サインの設置
- 自転車利用環境の充実
 - ・宿泊施設や運送事業者等と連携した取組みの推進
 - ・「自転車の休憩所」の充実
- 情報発信の充実
 - ・自転車利用促進のPR(マップの作成、奈良まほろば館等でのPR等)



▲南部地域におけるサイン整備のイメージ



▲案内誘導サイン整備事例



▲サイクリストにやさしい宿



▲ならクルマップ

【南部周遊観光の推進】

地域の魅力資源を活用した観光・交流の促進

観光案内所の情報発信による南部周遊観光の促進

- 中和幹線沿いに設置され、多くの来場者が見込まれる「まほろばキッチン」内に観光案内所を設置し、南和地域への訪問を促す観光情報を提供することにより、地域への滞在型周遊観光を促進させる
- 南和地域の特性である歴史・自然資源を活かした情報発信や人が人に奈良の魅力を伝える心のこもった観光案内を展開する

- 観光コンシェルジュを配置し、電子黒板や電子パンフレットといった機器を活用し、丁寧でわかりやすい案内を実施
- 県内の各観光案内所との連携による詳細情報の提供、市町村との連携によるイベントを通じた地域観光のアピール
- GPSデータ分析を活用した効果的な周遊観光の促進

平成25年度

- 4月14日(日)観光案内所オープン、コンシェルジュ3名を配置
- 電子機器を活用し、人対人の対応による旬の観光情報の提供を開始
- 市町村との連携イベントの開催

平成26年度

- コンシェルジュ3名(常時2名)を配置
- 電子機器を活用した、人対人の対応による旬の観光情報の提供
- 市町村との連携を強化し、イベント・情報の充実
- GPSデータ分析を活用した効果的な周遊観光の戦略の検討・実施



JAならけん
まほろば
キッチン内
観光案内所
市町村連携
イベント



(4) 南部地域への移住等の推進

- 南部地域への移住推進
- 地域外の人材による地域力の維持・強化

【南部地域への移住推進】

南部地域への移住等の推進

移住・二地域居住の推進

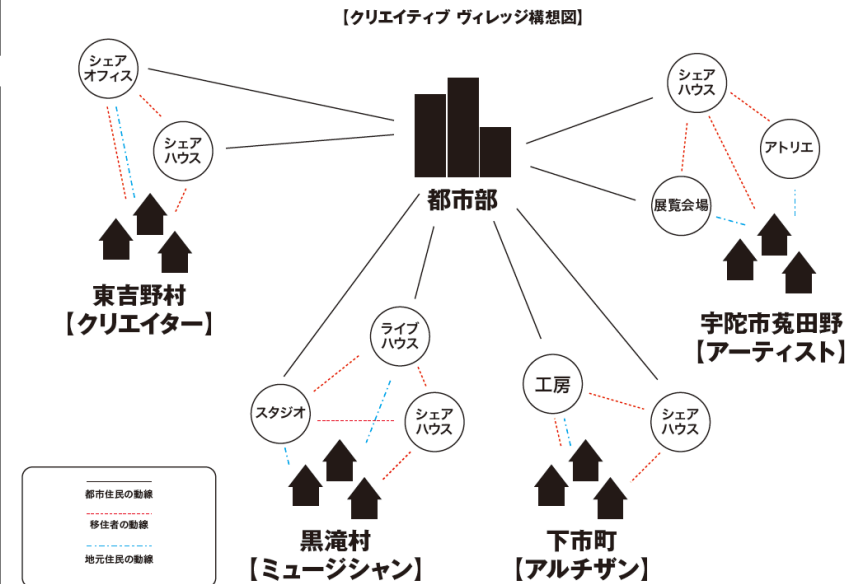
- 移住先としての魅力の向上や認知度を高めるための情報発信を強化
- モデル地域の受入体制の整備(拠点整備・起業支援)
- 市町村の受入体制の整備(ワンストップ窓口の設置促進)

～平成25年度

- 市町村担当者向けアンケート調査の実施
- モデル地域における奥大和クリエイティブヴィレッジ構想の策定に着手
(下市町・黒滝村・東吉野村・宇陀市菟田野)
- モデル地域におけるモニターツアー実施

平成26年度

- 奥大和クリエイティブヴィレッジ構想の策定
 - ・地域ごとに移住のターゲットの絞り込み
 - ・特色ある移住拠点施設の整備
 - ・ヴィレッジ間の交流会の開催
- 移住者「職」と「住」の拠点整備支援
 - ・奥大和クリエイティブヴィレッジ構想に基づく、移住者拠点施設整備への補助
 - ・「日本仕事百貨」による広報、人材の募集
 - ・モニターツアーの実施
 - ・高等技術専門学校卒業生等による地域資源を生かした技能訓練実施への給付金支給
- 優れた起業家向けの無利子融資制度の新設
- 移住情報の発信



【地域外の人材による地域力の維持・強化】

南部地域への移住等の推進

意欲のある外部人材によって、地域力の維持・強化や、紀伊半島 大水害被災地域の復興を推進

- 「ふるさと復興協力隊(県)」「地域おこし協力隊(市町村)」を募集・採用し、南部地域の市町村等に配置
- 活動内容 仮設住宅入居者の買物等生活支援、観光情報発信・イベント支援、農林業支援、鳥獣害対策支援、獣肉加工支援等各種活動で地域振興等に貢献
- 配置状況(H26/1現在)
 - ・ふるさと復興協力隊 五條市3名、十津川村2名、野迫川村2名、天川村2名、黒滝村1名、下市町1名、川上村1名、上北山村3名、下北山村2名、高取町1名
 - ・地域おこし協力隊 吉野町4名、十津川村1名、川上村5名、下北山村1名
 - 合計 29名

平成24年度

- ふるさと復興協力隊員を、10市町村に15名配置
- 地域おこし協力隊員を2町村で5名配置(吉野町4名、下北山村1名)

平成25年度

- 11市町村に20名配置
- 3町村で11名配置(吉野町4名、川上村6名、下北山村1名)

平成26年度

- ふるさと復興協力隊員を、11市町村に25名を配置予定
- 地域おこし協力隊員を4町村で13名配置予定(吉野町4名、十津川村2名、川上村6名、下北山村1名)
- ふるさと復興協力隊員の地域への定着を図る取組み



ふるさと復興協力隊員による春まな栽培



ふるさと復興協力隊の研修風景

(5) 財源の確保

- 過疎対策事業債の活用

(6) 今後検討を進めるプロジェクト

- 南部地域における教育環境の検討
- 地域でがんばる人づくり

地域支援員が地域の実情を把握し掘り起こす新規事業を随時追加

今後検討を進める事業

【南部地域における教育環境の検討】

- 今、住んでいる児童生徒に対する現在の教育環境の充実
- 将来、地域に住み続ける人たち、Iターン・Uターンにより移り住む人たちが、将来にわたり子どもの教育のことで不安を抱かない教育環境の構築

①教育の基本的な環境の整備 ②地域の特性を活かした教育 ③将来の教育環境を守る対策(都市とのハンディキャップを埋める対策)について検討

【地域でがんばる人づくり】

- 地域の課題や問題解決に携わる人づくり、ネットワークづくり